

# 我が校の強み弱み分析・評価シート

## ○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 【結果について（概要）】

### <教科（領域）ごとの調査結果から>

国語（5領域）・算数（4領域）・理科（4領域）の3教科とも、全ての学習領域で全国平均を上回った。

#### 全国平均正答率より上回った領域

- 国語：「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方」「我が国の言語文化」
- 算数：「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」
- 理科：「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」

#### 全国平均正答率より下回った領域

国語・算数・理科：なし

### <児童生徒質問紙調査から>

#### 【9割以上が肯定的に回答し、全国平均と比較して良い傾向が見られる主な項目】

「学校に行くのは楽しいと思うか」「人が困っているときは、進んで助けているか」「5年生までに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていたか」「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めているか」

#### 【全国平均と比較して良い傾向が見られる主な項目】

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか」「新聞を読んでいるか」「今住んでいる地域の行事に参加しているか」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか」「学校で授業中に調べる場面、学校の友達と意見を交流する場面、自分の考えをまとめ発表する場面で、PCやタブレットなどのICT機器を週3回以上使用した割合」

#### 【全国平均と比較して課題が見られる主な項目】

「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたか」「国語の勉強は好きか」

### <強み>

- ・国語・算数・理科の3教科とも、全ての学習領域で全国平均を上回った。特に、算数の「データの活用」の領域は、全国平均を17ポイント上回った。
- ・例年の課題であった「記述式」の問題形式に対する正答率が、昨年に続いて改善しているだけでなく、評価の観点（知識・理解、思考・判断・表現）と問題形式（選択式、短答式、記述式）の全ての区分で、全国平均を上回った。
- ・質問紙調査から、互いの考えを交流することへの意欲が高く、そのことで学級生活をよくしたり、学習で自分の考えを深めたり広げたりできていることを実感していること、地域とのつながりを大切に、地域貢献への意識が高いことがわかる。

### <弱み>

- ・正答率は全国平均より上回っているものの、国語と理科への学習意欲は全国平均を下回っている。
- ・質問紙調査から、各教科で学んだことを活用しながら考えをまとめる経験が比較的少ない。

## 【指導の充実に向けて】

- 昨年度に続いて全国平均を上回った児童の「自己有用感」を維持するため、一人ひとりの児童の課題に応じた支援と、居心地の良い学級集団づくりを行う。
  - ・学習につまずきの見られる児童への支援に力を入れ、個別の指導・支援を強化し、基礎学力の定着を図る。
  - ・苦手な学習や難しい活動へのチャレンジを奨励し、個々に的確な支援を行い、自己の成長を感じさせる。
  - ・本年度取り組んでいる「協働的な学び」で考えの交流を促進することで、学力向上を図るとともに、自他を尊重する心を育てる。
- 各教科の良い調査結果は、これまで取り組んできた「読み解く力・表現する力」の育成を意識した授業づくりや、子どもが主体的に探究する授業づくりが奏功したものとする。今後は、「読み解く力・表現する力」の更なる育成のために、中・高学年では新聞記事の要約、低学年ではミニ作文に定期的に取り組んでいく。また、各教科の学習形態として「協働的な学び」に力を入れて取り組むことで、児童の学習意欲の向上と、深い学びを実現させていく。
- 各教科で学んだことを他教科で活用する経験を増やため、カリキュラム・マネジメントの見直しを図り、教科横断的な学習を充実させるとともに、「総合的な学習の時間」の探求的な学習サイクルの『まとめ』の活動に力を入れていく。そうすることで、児童に各教科の学習の意義を感じさせ、更なる学習意欲の向上に繋げる。